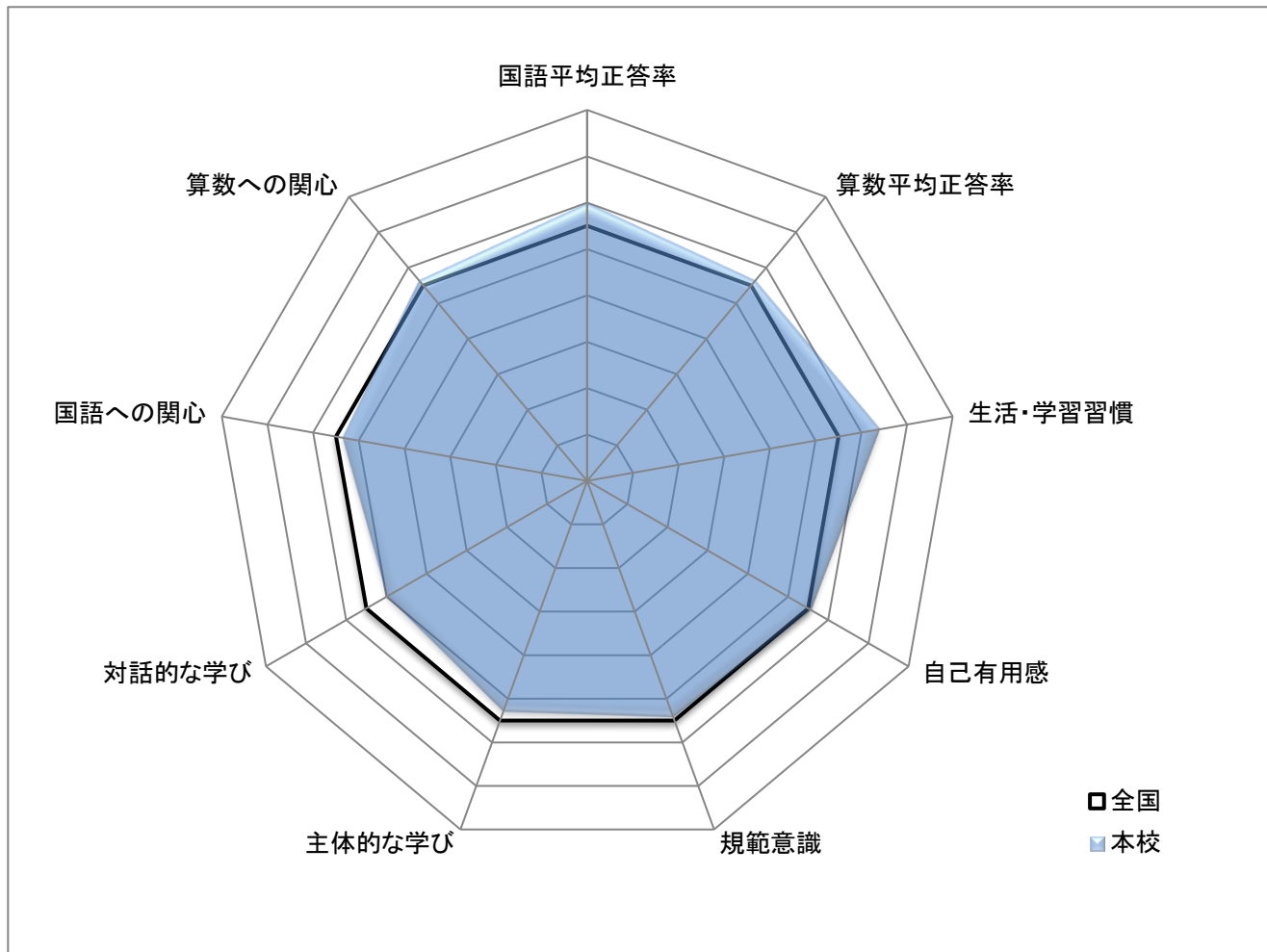


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

- ・朝や放課後の補習で学習内容の未定着の部分を補うことで、基礎学力が定着してきている。
- ・計画表や自学ノートを活用した自主学習、SNSルール作り等、家庭の協力を得ることで、生活・学習習慣が身に付きつつある。
- ・自分の考えを自信をもって発表したり、相手に分かりやすく工夫して伝えたりすることに苦手意識をもつ児童が多い。
- ・よりよく課題を解決するための方法を工夫したり、興味を広げて課題を探究したりする

《授業改善のポイント》

- ・国語では、学習の目的を意識させ、目的に応じた課題解決の方法を考え、工夫してまとめたり、相手に応じた発表をしたりできるようにする。
- ・算数では、必要な数値や資料を選び、具体的な場面に対応させながら、読み取った情報を適切に用いて式等に表すことができるよう繰り返し指導する。また、複数のデータに着目し、各項目の特徴や傾向を読み取ることができるようにする。
- ・ICTをより効果的に活用することで、発表への苦手意識軽減や、探究的な学習への意欲向上につなげる。

《チャートの特徴》

- ・平均正答率は国語、算数ともに全国を上回った。国語への関心は全国に比べてやや低い。
- ・生活・学習習慣がきちんと身につけている児童が多い。
- ・自己有用感、規範意識は全国とほぼ同程度である。
- ・対話的な学び、主体的な学びに対する評価が全国に比べてやや低い。特に対話的な学びにおいて、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたか」の項目における評価が低かった。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・自主学習の取り組みを親子で共有し、保護者からも励ましや声掛けをしてもらう。
- ・ICTを活用し、児童の学習の様子を伝えたり、作品を紹介したりしていくことで、より学習への関心を高めてもらう。